

A匍匐することはない

B枝または小枝が下垂したりねじれたりする

C枝は真直ぐ枝垂れ下垂する 細葉

D小枝は長く伸長し、よく枝垂れる〔シダレヤナギ節3〕

E葉は枝から斜め下に向かい、枝からやや離れて下垂する傾向がある

葉は80-150mm

(SGOHKTY, 植栽)(高木; 葉5細)【07シダレヤナギ】(実際にはこれで類似種との区別はし難い)

葉は80-150mm、巾10-20mm

葉柄5-10(C15)mm 他の詳細はロッカクヤナギと変わらない

(C; 全体としてエゾノカワヤナギに似るが、葉先端の細まり方、鋸歯の尖り方、葉柄の抜け、葉の厚みなどに違いがある)

(H; 札幌付近までは植栽可能だが、それより北で本種に見えるものはシロヤナギとの雑種と思われる)

(Gに、セイヨウシダレヤナギあり「花序の柄が長いので区別される。雌本であるが時に雄花をつける」)

E葉は枝から撫肩状に出て、枝とやや平行に下垂する傾向がある

葉は長く100-200mm

(SGHKT, 植栽普通)(高木; 葉5細)【07ロッカクヤナギf】(実際にはこれで類似種との区別はし難い)

新葉は両面毛密生、毛は早落性

葉表は毛散在 ほぼ無毛、中脈は毛密生 微毛散生

葉裏は毛散生 ほぼ無毛、中脈は直毛密生 直毛残る; 毛は次第に脱落するが中脈下部には残る; 裏中脈の直毛は中脈に平行する

葉表は緑、全面に白点密散在感あり; 裏粉白

中脈は両凸; 表は側脈浮出す感じあり、細脈透視(細脈は微細); 裏側脈は微凸-平坦、やや不明

低鋸歯-ひら鋸歯; 腺先長く鋭鋸歯に感じる

葉は長く100-200mm、巾20mm 葉身はやや下膨れ、尾状鋭尖頭の葉あり、鎌曲する葉あり

葉柄は毛密生 葉柄10-15mm(葉柄の長さは変化があり、長さで種の区別はできない; 山口)

托葉は鋭尖頭、偏長卵形、鋸歯縁; 基部に腺少数密集; 早落性

新葉の側縁は裏側に弧状に軽く反る

新枝は毛密生、芽に毛密生; 毛は次第に脱落する

(類似種では、ロッカクヤナギは子房下半有毛有柄で、子房がほぼ無毛無柄のシダレヤナギ・セイコヤナギとは異なり雌株花時には区別できる。葉時には葉柄の長さや葉の付く角度や下がり方などに違いがあるとされるが、実際の区別は難しい; 葉柄の抜けは生態学的に考察すると皆半周で違いはない; 山口)

E葉は枝から直角に出て、怒り肩状に曲がってから斜めに下垂する傾向がある 葉は短く60-110mm

(SGHKT, 植栽)(高木; 葉5細)【07セイコヤナギf】(実際にはこれで類似種との区別はし難い)

葉の細脈は、東北大産ではロッカクヤナギよりやや荒い

葉は短く60-110mm、巾6.5-14.5mm

葉柄は毛密生 毛残る

節間も短く枝は余り長くないが、稀に長い; 葉はらせん状につくが、若時は枝両側にやや2列生

他の詳細はロッカクヤナギと同じ

(KT; 品種とされるが、雑種の可能性がある)

(つくば植物園の古木では、葉の長さや下がり方はロッカクヤナギと区別できない; 東北大植物園の古木はロッカクヤナギより葉は明らかに短い; 山口)

(東北大植物園産のロッカクヤナギとセイコヤナギの比較では、以下の違いが見られた; 山口)

ロッカクヤナギ; 若葉でも側脈が表に浮き出る感がある; 中脈は太く表凸; 細脈は細かい(平均樹目は中脈の半分以下の大きさ)

セイコヤナギ; 古葉で少し側脈が表に浮出すが、盛り上がり少ない; 中脈は細く表凸; 細脈は荒い(平均樹目は中脈と同巾以上)

#### 参考

(Sは、子房の毛の状態を最初のキーとして、以下検索表を掲載するが、葉時の検索は使用できない)

F子房は殆んど無毛; 枝は甚だ長く伸長して良く垂れる; 葉は8-20cm

G葉巾5-12mm; 花柱は極く短い【シダレヤナギ】

G葉巾23-40mm; 花柱は僅か長い (SGO, 植栽, 奥羽)【オオシダレ】(KT; 枯死)

F子房は全面に細毛を密生; 枝は著しく伸長して垂れる; 花柱がない(S, 奥羽)【ミチノクシダレ】

F子房は下半有毛、上半無毛 G葉柄1-4mm; 葉巾5-17mm; 花穂の長さ1-2cm; 子房は全く無柄である(S, 植栽)【コウライシダレ】

G葉柄10-15mm; 葉巾20mmに達す; 花穂5cmに達す; 子房に短柄がある(SG, 植栽)【ロッカクドウ】

(Sは、ロッカクヤナギをシダレヤナギS. *Babylonica* L. のcv. *Rokkaku* とし、ロッカクドウS. *elegantissima* K. Kochを別にしている。Gは、両種を同一として扱いf. *rokkaku* Kimuraとする。HKTはロッカクドウの記載なし)

(Gオオシダレ; 発表者木村によれば雑種かもしれないという)(M41; ヤナギは強く剪定すると強いシュートが発生し大葉が現れるので、オオシダレの確認は普通状態のものから葉の大きな株を見出す)(M41; ミチノクシダレは産地と記載文からシロヤナギの枝垂れ品の可能性が高いとおもう。木村の考えではユウキシダレと同じ可能性も一端としてあるよう)